

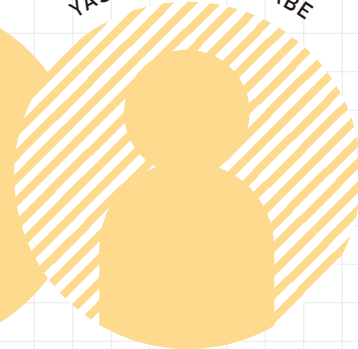
わたなべ やすひこ  
**渡辺 恭彦** 准教授

専門分野



人文・社会 /  
思想史

YASUHIKO WATANABE



**Q** 担当科目を教えてください



**社会思想史**

西洋の社会思想史とカール・マルクス『資本論』の世界について講義します。主に、マルクスに影響を与えた思想潮流、マルクスその人の思想形成、『資本論』の影響を受けた思想家を扱います。

思想家が置かれていた時代状況やエピソードを踏まえつつ、思想がダイナミックに生成する過程を追体験してもらうことが目標です。

**社会思想史特論**

文明開化以降の日本思想について講義します。西洋の思想や哲学を受容した日本の思想家がオリジナルに思考しえたかを考えます。また、知識人が理論と実践の関係をどのように捉えていたかについて知り、学ぶことの意味を考えてもらえればと思います。

**経済学史**

古代・中世の経済思想からはじめて、重商主義、重農主義、古典派経済学の形成を経てマルクス経済学が形成されるまでの経済学史の流れを概観します。主として西洋の経済学史を対象としますが、マルクスの受容が日本の思想史に与えた意義についても考えてみたいと思います。

**演習 (ゼミナール)**

近代資本主義を対象とする文献をゆっくり読んでいきます。古典は考え抜いて書かれた結晶のようなもので、読むたびに新たな発見があります。また、狭い意味での学業にこだわらず、普段から小説、映画、報道などに触れ、人と関わりながら見識を広げてください。そこで抱いた実感が古典を読む際にも生きてきます。

**Q** 研究のテーマは何ですか？



私たちの考え、意識、価値観はどこから生じるのか。また、行為の因果関係や個性はどのようなものなのか。こうした問いについて、近代日本の思惟をさまざまな視角から見ることにより探究しています。戦後日本の哲学者である廣松渉の研究からはじめ、戦前の京都学派や作家の高橋和己を手がかりにした戦後思想へと枝葉を伸ばしてきました。

Let's read a book

わたしの  
おすすめ本

**人生論ノート**

著者 三木清

出版社 新潮社 (新潮文庫)

出版 1978年

ISBN 978-4101019017

三木清は空前絶後の秀才と評されますが、波瀾万丈の人生を送り、若くして獄死します。当時の哲学者としては柔らかい文体で、個性、幸福、嫉妬などの身近なテーマについて綴られた文章は、心の襞に触れるところがあります。青空文庫でも読めます。



Q 研究者ってどんな仕事ですか？



研究者という意識がやや希薄かもしれません。その時々自身が考えたいことに取り組んできました。何者になれるか分からないまま過ごしてきて、いまだに何者にもなれていないような気がしています。

Q 先生ってどんな人？



人 休みの日は何をしていますか？

近所の図書館や古書店へ行ったり、家の用事を済ませたりしています。喫茶店でほっこりすることや草木を眺めて昼から酒でも飲むことが、目下の望みです。

人 どのような大学生活でしたか？

小学校から情性で続けたサッカー、海外の学生と交流する国際学生NPO、アルバイトなど、あちこちに首を突っ込む一方で、教室にはあまり足が向かいませんでした。もっと勉学に励んでおけばよかったと思います。

人 大阪産業大学キャンパスや大学周辺でのおすすめスポットは？

来て間もないので、これから探そうと思います。校舎から望める生駒山の眺めはとても気に入っています。



40歳を目前に、はじめてドイツの地を踏んだ時の写真です。ハイデルベルクにある哲学者の道から対岸を眺めた風景で、奥には古城が見えます。ちょうど100年前に三木清もハイデルベルクに留学していたことを思い、ロマンを駆り立てられました。

ひとこと 学生のみなさんへ

私はとても長い学生時代を過ごしてしまったので、実を言うと、今でも学生気分が抜けずにいます。大学4年間はとくに葛藤の多い日々で、その時々を考えていたことが今でも思い出されます。人生の折り返し地点に来てふり返ると、かけがえのない時間でした。みなさんも、一日一日を大事に過ごして下さい。

